

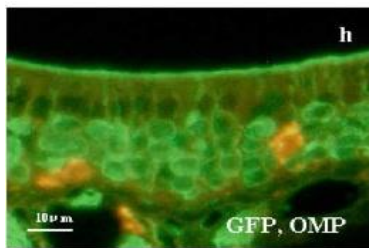
機能再生・再建科学専攻 生体機能再生・再建学講座 耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 Department of Otolaryngology

臨床だけで満足しない
新たな可能性
アカデミックサイエンスを目指して



研修科教授挨拶(耳鼻咽喉・頭頸部外科)

耳鼻咽喉・頭頸部外科の領域は、耳・神経耳科学、鼻・アレルギー学、口腔・咽頭・喉頭科学、頭頸部外科などから構成されています。岡山大学耳鼻咽喉・頭頸部外科の代表的な研究テーマとして、伝統的に難聴とくに小児難聴が挙げられます。現在、全国規模で行われている厚生労働省科学研究の難聴児言語発達について中心的な役割を担っています。新しい伝統としては、鼻・アレルギー学があり、この分野でも国内で有数の業績を誇っています。また、嗅覚再生(写真1 骨髄細胞由来の嗅細胞)や滲出性中耳炎(写真2 ノックアウトマウス)でも注目を集めてきています。また、感覚組織の加齢の研究も今後発展させていきたいと考えています。このような研究を遂行する上で若い力を必要としています。臨床だけではなく研究にも眼を向け、視野を広げることによって、多彩な人生を経験していただきたいと思います。



ある研究グループの紹介

1 中耳炎における炎症性サイトカイン
急性中耳炎、滲出性中耳炎では様々な炎症性サイトカインがその発症と遷延化に関与している。炎症性シグナル伝達物質のノックアウトマウスなどを用いて中耳炎における炎症のメカニズムや治療法について研究を行っている。

2 動脈硬化症と難聴
動脈硬化症は食生活の変化に伴って増加しており、現代社会において様々な疾患との関連が指摘されている。内耳障害による難聴と動脈硬化症との関連について動脈硬化モデルマウスを用いて検討を行っている。

(写真2: 動脈硬化モデルマウスとして使用しているアポリポプロテインE・ノックアウトマウス)

3 ヒトの側頭骨を用いた病理学的検討
病気の原因を探求する上でヒトの病理組織学的研究は重要であり、米国ミネソタ大学と共同で2000例近いヒト側頭骨標本を用いて内耳、中耳疾患の研究を行っている。

連絡先

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 (教員假谷伸)

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1

tel. 086-235-7307 fax.086-235-7308

E-mail: jibika@cc.okayama-u.ac.jp

URL: <http://www.okayama-u.ac.jp/user/jibika-1/index.html>